

2018年度学生 ILP 実施記録

はじめに

今年で熊本学園大学しょうがい学生支援室は10周年を迎えた。学生たちと過ごす中で、何を経験しておくことが必要なのかしょうがい学生やしょうがいのない学生、職員で議論することが多くなった。そこでヒューマンネットワーク熊本の吉村千恵氏と学生たちから出た話題のひとつが「学生 ILP」である。決して、大学だけがやるべきことでもないし、高校を卒業して社会に出ることを想定すれば、高校生活の間に経験しておいた方がよい。だが、どんなアプローチをすればしょうがい学生たちに興味をもってもらえるのか。文部科学省も地域の当事者と連携してしょうがい学生を育てようといっている。そこで、しょうがい学生支援室で企画をたててみようと思案を作成した。上学年のしょうがい学生たちの意見を聞き、インクルーシブ学生支援センター各窓口、そしてヒューマンネットワーク熊本のスタッフと検討を重ね、初の「学生 ILP」の機会を提供することができた。しょうがいのある1年次対象に参加希望を募り3名のしょうがい学生が初代の参加者となった。しょうがいがある人だからこそできること、大学生活の中で本人の内に響くもの、突き動かされるものに出会ってほしい。それが大学生活で成し遂げたいことへ向かう原動力になると思うからだ。そのひとつの機会が「学生 ILP」であればと思う。

企画説明

2018年度インクルーシブ学生支援センタープログラム「学生 ILP (ILP= (Independent Living Program))」において、地域で活動をしているヒューマンネットワーク熊本(以下、ヒューマン)の当事者の方々にご協力頂き、学生が「自立生活」に関する心構えやスキルを学ぶためにインクルーシブ学生支援センターの学校行事として開催した。本プログラムでは、しょうがいのある学生がしょうがい者の「自立生活」について知り、実際に経験をすることで学生自身が個別に必要な支援を考え、「自立観」を高めることを目標とし実施した。

本学が「学生 ILP」を実施する理由として、学生自身の「自立観」が就職活動に至るまでの中で経験の浅さと気づきのなさが課題としてあげられたことによる。そこで、地域のしょうがい当事者で活動をしているヒューマンと連携し、学生 ILP (自立生活プログラム) にしょうがい学生が参加する過程において、学生自身が力をつけていく「場」として本プログラムを提供した。プログラム立案時に見込まれる効果として、すでに社会に出ている先輩のしょうがい者から生活技能などを学ぶことができ、一泊二日の宿泊や外出を通して家族でない介助者との接し方、社会資源の使い方など、活動内容は学生自身が目標やスケジュールをたて指示を出せるようにする。さらに本プログラムにおける実体験が「自立」を知るきっかけとなり、その後の学生生活に反映され、さらに卒業後の就職や当事者活動にも役立つことが見込まれる。

目的 (ヒューマンネットワーク熊本)

しょうがいのある人はしょうがいを理由に、保護の対象として認識され、自己決定・自己選択・

自己責任・自己管理の機会を奪われることが多い。それが学生である場合はさらに保護者や教員による先回りが多くなる。様々な成長の機会を奪われたしょうがいのある学生は社会性が不足しがちになり、学校生活において、人間関係の構築や卒業後の生活を考える際、困難に直面することになる。プログラムを通して学生たちの社会性を育て、自分の人生は周囲に決められるものではなく、自分で選び、多くの可能性があるということを学んでもらう。

【事前説明会】

日 時 2018年7月19日(木) 16時20分～17時50分

場 所 熊本学園大学4号館1階しょうがい学生支援室サポートルーム

参加者 ヒューマンネットワーク熊本→日隈、友村(光)、友村(ひ)

居宅支援事業所ピア→志方

熊本学園大学学生：学生4名

しょうがい学生支援室→権藤、平江

0 インクルーシブ学生支援センター学生 ILP の概要について (権藤)

1 特定非営利活動法人自立生活センターヒューマンネットワークの歴史・活動内容(代表：日隈)

2 ILP について (友村(光))

- ・一般でいう自立とは
- ・ヒューマンが考える自立(自己選択・自己決定・自己責任)
- ・制度を知る(相談員に聞く)
- ・経験の少なさ、社会性不足

【プログラムで経験し自分のものにしていく！】

3 しょうがいのある学生 ILP プログラム

第1回～第6回までの目標・内容説明 (友村(ひ))

4 学生たちからの質問

【第1回】

日 時： 2018年9月21日(金) 16時20分～17時50分

場 所： 熊本学園大学4号館1階しょうがい学生支援室サポートルーム(座学90分)

参加者： ヒューマンネットワーク熊本→友村(光)、友村(ひ)、高田、阿曾、植田、田村、

居宅支援事業所ピア→志方、河野、宮下

熊本学園大学学生→しょうがい学生3名

しょうがい学生支援室→権藤、平江

目標：自立生活とは何かを知る

メインプログラム：参加者へのオリエンテーション

- 1) プログラムの目的や内容の説明 (20分)
- 2) 自立生活って何? (10分)
- 3) 先輩しょうがい者のライフストーリーを聞いてみよう (60分)

説明：メインプログラムでは最初にプログラムの全体像を説明し、質疑応答を行う。その後、自立生活とは何かという話の時間を設け、どんなにしょうがい重くても親から離れ、自立した生活を送ることができることを知る。最後にヒューマンネットワーク熊本のしょうがい当事者からライフヒストリーを聞くことで、自立生活への具体的ビジョンを持つことを目指す。

ライフヒストリー担当者：あそどっぐ氏（阿曾太一）、植田洋平氏

実施内容：①自己紹介(本名・本日の呼び名)②ゲーム※(山手線ゲーム)③「自立生活」ってなあに？④ピアカンについて⑤先輩しょうがい者の自分史を聞く 5-1 植田洋平氏 5-2 あそどっぐ氏(阿曾太一) ※ゲームのお題(花の名前・1人暮らしに必要な家庭用品は何かなど)

【第2回】

日 時： 2018年9月28日(金) 16時20分～17時50分

場 所： 熊本学園大学4号館1階しょうがい学生支援室サポートルーム(座学90分)

参加者： ヒューマンネットワーク熊本→友村(光)、友村(ひ)、高田、友村(年)、植田
居宅支援事業所ピア→志方、河野
熊本学園大学学生→しょうがい学生3名
しょうがい学生支援室→権藤、平江

目標：自分の考えをまとめ発表する

メインプログラム：

- 1) 自分史を語ろう、夢を語ろう、仲間の話を聞いてみよう (20分×3人)
- 2) (公共交通機関を使って) 行きたいところに行く計画をたててみよう (30分)

説明：自分史やこれからの夢を語ることで、自分のこれまでの生き方を振り返り、これからの生き方を考える機会にする。また、人前で話すことで参加者のエンパワメントに繋げる。

他の参加者の話を聞くことで、自分と重なる部分や違う部分を見つけ、新しい気づきを得ることができる。また、公共交通機関を実際に利用する計画を立て自分で行きたいところに出掛ける計画を立てる。

実施内容：①自己紹介(本名・本日の呼び名)②ゲーム(まじかるバナナ)③自分史を語る(しょうがい学生3名)④第4回で実施する半日外出の個々の要望を聞きホワイトボードに記載。(Aさん⇒光の森、Bさん⇒新幹線で博多、Cさん⇒新幹線で鹿児島 平川動物園)

【第3回】

日 時： 2018年10月12日(金) 16時20分～17時50分

場 所： 熊本学園大学4号館1階しょうがい学生支援室サポートルーム(座学90分)

参加者：ヒューマンネットワーク熊本→友村(光)、友村(ひ)、高田、友村(年)、植田
居宅支援事業所ピア→志方、田中
熊本学園大学学生→しょうがい学生2名
しょうがい学生支援室→権藤、平江

※しょうがい学生1名は、所用にて欠席。事前にヒューマンの友村氏に

連絡をされており承諾を得たとのこと。当時、発表する予定だった外出の計画書を友村氏に渡し
てほしいと事前に支援室に届けられる。

目標：ヘルパーの利用の仕方を知る

メインプログラム：

- 1) (公共交通機関を使って) 行きたいところに行く計画報告会 (10分)
- 2) 介助者との関わり方について (50分)
- 3) 自分に必要な介助を考える (30分)

説明：行きたいところに行くという自己決定、公共交通機関の利用計画を立てることで移動の
自立を図る。自分に必要な介助を考えることで自己管理能力をつける。また、そこで大切に
なる介助者との関わり方の基本的なルールや心構え等を知る。

実施内容：①自己紹介(本名・本日の呼び名)、②第4回で実施する半日外出の個々の目的地・予
定出発時間・移動方法・学園大帰着予定時間を聞きホワイトボードに記載。(Aさん⇒目的地・
光の森ゆめタウン、移動⇒学園大→水前寺駅→電動車いすで光の森まで自走 往復460円、内容
⇒映画鑑賞(作品未定)、昼食、店内散策)。(Bさん⇒目的地・福岡キャナルシティ、移動⇒新
幹線・学園大→水前寺駅→熊本駅→博多、昼食他未定で担当者と相談中)。(Cさん⇒目的地・熊
本動植物園、移動⇒市電、昼食⇒動植物園の中かその近辺、内容⇒熊本市動植物園、他未定で担
当者と相談中)。
③ヘルパーとの関係づくりについて 担当：友村(年)氏 ③-1(月曜日)(火曜日)
日常生活の中のヘルパー利用、 ③-2 ヘルパーとの理想の関係、 ③-3 当事者主体、
④ヘルパーについて、④-1 ヘルパーとして(やりがいなど)、④-2 制度について、④-3 介護と介
助の違い、④-4 医学モデルと社会モデル、④-5 ヘルパー利用者とヘルパーとの絆

【第4回】

日 時： 2018年10月28日(日) 外出

場 所： 熊本学園大学14号館正面玄関集合

参加者： ヒューマンネットワーク熊本→友村(年)、高田、植田

居宅支援事業所ピア→熊、志方、河野

熊本学園大学学生→しょうがい学生3名

しょうがい学生支援室→権藤(学園大学にて待機)。

目標：実際に行動する。

内容：公共交通機関を使って出かけよう(計画に応じ変動)。

説明：実際に公共交通機関を使い、自分の希望先に訪問し様々なことを経験する。それらの体
験を通じて移動やコミュニケーション、自己選択や自己決定について学ぶ。

実施内容：詳細は個別スケジュール参照

8時30分→全体確認(植田氏・河野氏)

Aさん→10時30分学園大出発→JR→光の森→学園大(サポートルームにて報告)15時30分終了。

友村(年)氏宅へ移動。【第5回I(ヘルパー利用見学)も同日実施】16時30分～18時30分終了。

Bさん→10時00分学園大出発→JR→光の森→学園大。

Cさん→8時45分学園大出発→市電→熊本動植物園→昼食(ラーメン屋)→市電→植田氏宅(バリアフリー状況見学)→15時40分大学着→全体報告→解散→ヘルパーと情報共有16時終了。

【第5回】

日 時： 2018年11月未定 火曜日～水曜日にかけて宿泊もしくはヘルパー利用見学

場 所： 熊本学園大学出発

参加者： ヒューマンネットワーク熊本→友村(ひ)⇒Bさん担当、植田⇒Cさん担当。

熊本学園大学学生：Bさん → I (ヘルパー利用見学)11月7日(水)10時～

Cさん → I (ヘルパー利用見学)11月15日(木)18時～

しょうがい学生支援室へ各学生から実施前にスケジュール報告あり。

実施内容：詳細は個別日程表(個別作成)

参加希望者はIもしくはIIを実施。

I (ヘルパー利用見学)

目標：ヘルパーを利用しながら地域で長年自立生活をしているしょうがい者の生活を学ぶ。

内容：自立生活をしているしょうがい者に具体的に同行することで、食事準備などヘルパーの使い方を学ぶ

目的：実際に自立生活をしている当事者の家へ行きヘルパーを利用した生活がどんなものかを実際に見て自身の自立生活のイメージをつける。

また、その体験を通して介助者との関わり方についても学習する。

II (一泊二日)

目標：ヘルパーを利用しながら地域で長年自立生活をしているしょうがい者の生活を学ぶ

内容：自立生活をしているしょうがい者に同行し宿泊体験を行う。具体的に同行することで、食事準備や夜間や早朝の過ごし方、ヘルパーの使い方を学ぶ。

目的：実際に自立生活をしている当事者の家に宿泊し、ヘルパーを利用した生活がどんなものか実際に見てもらい、自身の自立生活イメージをつける。また、その体験を通して介助者との関わり方についても学習する。

【第6回】

日 時： 2018年11月23日(金)16時20分～

場 所： 熊本学園大学 4号館1階しょうがい学生支援室 サポートルーム

参加者： ヒューマンネットワーク熊本→友村年、友村ひ、友村み、植田、高田

熊本学園大学学生→しょうがい学生3名

しょうがい学生支援室→権藤

目標：学んだことをまとめる。

説明：学んだことや今後の課題などをまとめる。頑張った自分や友達をたたえる。プログラムを

通して学んだことの共有等を行う。

実施内容：個々の振り返り、総括、交流会

総括

参加者(学生・ヒューマンスタッフ)からの感想 プログラム終了後に参加学生たちから感想を提出してもらった。①行き先の選定をする際に考えたことは、「行きやすさや、公共交通機関を使って行ける場所であること」、「交通の便の良さ」、「車いすでも問題なく移動できるか(バリアフリー、エレベーター)」、「楽しめる場所(店など)はあるか」、「移動にかかる時間、料金」、「とにかく、移動時間より、楽しめる時間を多くとれるようにしました」、②ヘルパー利用について、利用体験前と後での違いについての感想は、「ヘルパーの利用は初めて、ヘルパーを使ってみてヘルパーの方との関わり方やヘルパー利用を通してヘルパーを使った実際の生活を知ることができた」、「頼みたいことを口に出すことができた(フードコートでの食事運びなど)」、「最初、「ヘルパー」と聞くと、まだ一度も利用したことがなかったので、イメージがつかなかったのですが、実際にヘルパーさんを利用されているところを見学させてもらい、イメージをつけることができました」、③自立生活の「場」をみて思ったことは「自立生活で、自分のしょうがいに合わせて生活できるように工夫していたり、自分でできないことはヘルパーを利用することで前向きに楽しく自身のしょうがいに向き合って自立生活をされていると感じた」、「今までは料理や掃除といった家事援助やお風呂の見守りがメインだった。今回実際にお宅におじゃまして、ネイルやメイクなど自力で難しいことなら、限定せずに頼んでいいと思った」、「実際に一人暮らしをまだしたことにはないですが、お宅を訪問し様々な工夫をされているなど感じたのが第一印象です。自分の取りやすい場所に物を置き、トイレやお風呂場もそれぞれ使いやすいように工夫されていて、すごいなと感じました」、④自立生活プログラムを通して自分の将来の生活をどのようにイメージできましたか?の問いには「自分自身も将来1人で生活をしたいと考えているので、また具体的ではないが今回のプログラムを通して、ヘルパーの利用や、自立生活を実際に見ることができ、将来の自分の生活の参考とすることができた」、「アパートで一人暮らしし(大学か駅のそば)をしながらヘルパーさんに手伝ってもらう(毎日ではなくても週数日、特に講義や仕事が遅くまであって自分では家事ができなさそうな日に手伝ってもらえると助かると思う)」、「今回、改めて様々なことを体験できてよかったです。どうしても、しょうがいを持っていると1人暮らしをすることになった際に困った場面に遭遇した時の対処法について悩んでいたのですが「問題が起こる前に対処する」つまり、私自身が日常生活を送る上で過ごしやすくなるように色々な工夫をすることも大事だなと感じました」、⑤その他では「実際に一人暮らしをすることになった時、どのくらいの時間数ヘルパーさんに来てもらえるのかが分からないので少し不安」、「今回は、このような機会をつくって頂きありがとうございました」と書いていた。ヒューマンからの参加者の感想では、「今回の1年生はすごいなあと思った。自分はこうだから〇〇しなきゃ」と言うのかと聞いていたら他人と比べたりしてないし、今後も3人とかかわっていただけらと思います」、「私は、盛り上げる人で連れて来られた。ここに来るまで、みんなが全然しゃべ

ってくれなかったらどうしようとか心配だった。けど、みんなしっかりしていて、こっちが緊張して勉強させて頂いた。来てよかった。これからもかかわって行ってほしいなあと思います。ヒューマンにも来てほしい。ありがとうございました」、「学園大から学生 ILP をしてほしいと言われ、今までの親離れができていない子たちで、どういう子たちなのかあと思ってきました。けど、みんなしっかりした子で、それぞれ考えてくれてよかった。最初は不安があり、参加することで不安が消えることはないと思うけど減ったと感じてもらえてよかった。この先もヒューマンとのつながりでいろんな未来を考えてほしいと思います」、「みなさん、事前説明会プラス第6回ともお疲れ様でした。Bさんとは、中2以来の再会でした。こちらがお母さんにも説明できていたらBさんも交渉しやすかったかなといろいろと反省はあります。ヒューマンとのかかわりも今後もつながっていったら。就職試験、勉強以外の活動も是非みつけて下さい。それがヒューマンだといいなあと思います」、「今回は、はじめての企画で学園大とのコラボでした。プログラム、つめこみすぎた？学生さんには負担になったかなあと思うところもあります。けど、いろいろな話しができてよかった。おじさん、おばさんでは話しが合わないかもって思いつつも、みんながそれぞれいろんな意見を言ってくれてよかったです。もし、来年もできるのであれば、もっと良いプログラムをつくっていきたいです」とのことだった。

成果

学生からの感想を聞く限り、しょうがいのある人が一人でもしくはパートナーと地域で「自立生活」を営む生活を学生自身が見学できたことで「自立生活」のおおよそのイメージを持つことができたように思われる。計画や企画、自分にとって考えなければならないこと、必要な支援、工夫をすることを自らが主体的に捉え、検討し実行することでしょうがいのある人の自己決定がいかほど重要であるかが感じとれたようである。その後の学生生活でも行動の変化が見られ、積極的に「ヒューマン祭り」、「やさしいまちづくりウォーク」への参加、「バリアフリー調査」のアルバイトを引き受けるなど、当事者として意欲的に活動する姿があった。また、ヒューマンの方々を含め当事者と積極的にかかわるようになり、バリアフリーの問題についても自分だけのものではなく社会全体の問題であることの気づきもあった。整えられた環境の中だけでない場所での経験は、今後の学生生活で主体的に活動することにつながるのではないかと思う。本プログラムの目的であった「自立生活」に必要な心構えやスキルについては、大学入学までは少なからずとも親が先回りして整えていた部分があり、いわゆる先回りの介助から、原則は自らが行う指示介助を学生たちは、はじめて経験したことになる。

課題とその対策

第一点目に、今回は、発達しょうがいのある学生も参加しており、ヒューマンの方々にはその特性にも配慮頂いた。学生が、約束や話した内容を忘れてしまったり、何度も同じ質問をしたり（メモをなくす等）したが、その都度、ヒューマンの担当者は必要に応じて対応をして下さった。学内の生活ではその特性が大きく出ることにはなかったが、新しく始めることに関しては本人の中

でもとまどいや疲れがあつて、特性が顕著にでた。重複しょうがいがある場合は、特性が出るかもしれないということを想定しておく必要があると思った。

第二点目に保護者への対応がある。高校までは、先生と密に連絡を取り「一緒に育てていきましょう」というスタンスで保護者への説明会も開催されていたと電話で話され、個別に3名の親御さんには来室して頂き対応した。その後、ヒューマンからの提案で当事者の方の話も聞いて頂いた方が良いとのことで、3名の保護者、ヒューマン担当スタッフ、支援室職員が集まり大学でプログラムについての説明会を行った。大学は、高校までとは違い自主性を重んじていることから保護者への説明は本人たちからするよう伝えていた。しかし、保護者が納得のいく説明が学生たちからされておらず、本人自体もよく理解できないまま参加していると保護者からの指摘があった。その指摘については大学側の責任であり再度、本人たちへ説明し、保護者へもプログラムの主旨を説明した文書をお渡しした。また、第5回の一泊二日の宿泊は、しょうがいのある学生・保護者から他の選択肢も加えてほしいとの要望があり、ヘルパー利用見学の項目を追加した。次回開催時には、今回の保護者からの意見も反映するかたちで保護者宛に大学から学生 ILP についての主旨説明の文書をプログラム開始前に配布する。また、ヒューマンが大学とは別プログラムで ILP について保護者対象のプログラムを組んで「自立」について話して頂く予定としている。

第三点目に、次回のプログラムの内容については、以下の点を考慮し計画する。①学生 ILP(案)から実施までに半年の時間が経過していたことで各々の学生がすでに公共交通機関を使って通学し、一人での外出がすでに経験済みとなってしまう。しかし、個別で計画を立てヘルパー利用を経験できたことに関しては実施した意味あったと思われる。②学生から「プログラムの中で関心のある回だけに参加したい」との希望があったが、プログラムひとつひとつに意味があり全体の回を通して学生 ILP を経験してもらうことに意義がある。したがって、次年度も全プログラムの参加を必須とする。しかし、病欠は別途対応とすることとしている(ヒューマンとは協議済み)。

次年度開催について

今回、3名の学生が参加不可であった1泊2日の自立生活体験を参加希望者に対して行う。実施主体はヒューマンネットワーク熊本となる。目標は、「ヘルパーを利用しながら地域で長年「自立生活」を営むしょうがい者から生活を学ぶ」とし、実際に「自立生活」をしている当事者の家に宿泊し、就寝時・起床時も含めヘルパー利用のスキルを見てもらい、日常に照らし合わせた自身の「自立生活」のイメージをつけてもらう。今回、参加した3名の学生が2年次(2019年度)になり、ヒューマンが主催する1泊2日の宿泊体験をした上で、ヒューマンが行っている ILP 活動に参加(同行)し、自らの経験を出身校や他大学へも行き、学内のしょうがい学生だけでなく他のしょうがい学生にも学生 ILP を伝える。また、自らが支援者として活動することで支援を受ける人ではなく、支援を行う人の立ち位置から見える支援者のあり方を学んでもらえればと考える。現時点ではヒューマン、学園大の2019年度の開催時期は7月中旬から11月下旬、事前説明会も含め全9回を実施予定としている。

おわりに

この学生 ILP でしょうがいのある学生たちが、自分に何ができるのか、それを本人が見極め、主体性をもって動く力を引き出す機会になっていればと思う。今回のプログラムでは、インクルーシブ学生支援センターや保健室にも予算や保険に関する事で多大なるご協力を頂いた。また、新規のプログラムでもあり学外との連携にもセンター内で検討を重ねた上で、「今、しょうがい学生に必要なものは何か？」の問いに真摯に向き合い、社会に出る前の最後の高等教育機関の役割を果たしていくべき課題としてプログラムを承認して頂いた。さらにヒューマンの方々にも学生の「自立生活」に関する育ちに大きく貢献して頂いたことは何よりも有りがたいことであった。今後も大学及び地域で活動するしょうがい当事者と連携し、学生 ILP を通して学生自身が「自立生活」を知る、体験する機会において進学までの経験不足を脱し卒業までに多くのものを学びとってもらいたいと願う。

※熊本学園大学では「しょうがい」の表記は平仮名を使用しており、本文では本学にて使用しているものを採用し記載している。